一般質問（要旨）

在日米軍横田基地・環境問題 市職員のワークライフバランス

みらいネットワーク　青山 秀雄　議員

質問　在日米軍横田基地問題について、①横田基地所属のCV－22オスプレイが短期間に緊急着陸を繰り返す中で、住民への安全を無視した飛行訓練は決して許されない。市は国に対し説明を求めたのか。②同一団地内で住宅防音工事の対象が分断されている。騒音コンター見直しなど、改めて強く改善を求めるべき。③PFAS漏出に伴う土壌・水質検査について、日米地位協定の環境補足協定の抜本的な改善を強く求めるべき。

答弁　①都と周辺市町連絡協議会として遺憾の意を示した上で、原因究明や再発防止策の徹底などを要請した。②これまでも騒音コンターの見直しなど国による対応を申し入れているが、引き続き要請を重ねていく。③日米間の話し合いや要請等の中で実現した協定のため、引き続き抜本的な改定について要請を重ねていく。

質問　市職員のワーク・ライフ・バランスについて、①年休取得率が僅かに上がっている。更なる取得率の向上に取り組む考えは。②パワハラや人間関係に伴うメンタル疾患への対策として、管理職への指導状況は。

答弁　①全ての職員の年休取得が増進するような施策を今後も講じていきたい。②ハラスメントの内容も盛り込んだ、マネジメント研修を実施している。引き続きワーク・ライフ・バランスの促進に配慮し、職場環境の整備に取り組んでいく。

質問　東中神駅自由通路上に常習的に小便をしている人がいる。清掃員も大変困惑しており即刻解消すべき。

答弁　防犯対策向上のため、防犯カメラ増設を予定している。引き続き適正な管理に努めていく。

住み続けたい昭島を目指して

都民ファーストの会・立憲民主党昭島市議団　ひえの たかゆき　議員

質問　市内のプール整備について、①一年中利用が可能である屋内プールの必要性について、見解は。②新しい施設を整備する場合には、直営のほか指定管理者による民間活力の導入など、どのような手法がふさわしいと考えているのか。

答弁　①近年の猛暑における熱中症リスクの増大から、必要性は十分認識している。②令和7年度に策定予定のスポーツ施設整備構想において、引き続き総合的に検討していく。

質問　空き家・空き地の雑草対策について、①所有者の責任において管理することを、市民に対して周知・啓発すべきと考えるが、対応は。②火災等の緊急時に、市が処理できる体制を整えているのか。また、処理に係る費用を所有者に請求できるのか。

答弁　①市ホームページ等で周知・啓発を行っているほか、苦情等があった場合には直接所有者に通知している。②緊急時に限り、所有者に断った上で職員がせん定等の対応を行う場合があるが、所有者に対する費用の請求は行っていない。

質問　公共施設の企業利用について、販売や勧誘を伴わない会議等に限り、市立会館や公民館を有料で利用できるようにすれば財源確保にもつながり施設の維持管理にも役立つ。ルールを変更する考えは。

答弁　市立会館は、市民福祉の増進等を図るための施設であるため、企業活動での利用は困難であるが、公民館やアキシマエンシスでは有料で企業の会議や研修等に利用できる。また、7年12月開設予定のイーストテラスでは、使用料の加算を条件に営利目的での利用も可能となる。

親子で読書の秋
（アキシマエンシス）

多様性と意外性のある楽しいまちづくりについて

無　会　派　なかお フミヒト　議員

質問　市内の労働者不足に対応するため、外国人労働者の活用や支援に関してどのような取り組みを行っているのか。

答弁　ハローワークや東京しごとセンターなどと連携し、外国人労働者の就業を支援している。

質問　現在、市の人口は増加傾向にあるが、将来的な人口動態の見通しと、それを踏まえた若者や子育て世代への具体的な支援策は。

答弁　大規模開発により一定期間は人口増が見込まれるが、その後は減少が予測される。子どもの医療費や学校給食費の無償化のほか、子ども・若者未来会議等を通じ、子ども・子育て世代の意見を反映した施策を実施している。

質問　非核平和への取り組みについて、①子どもたちに核のリスクと平和の重要性を伝える平和教育は行っているのか。②核廃絶に向けた今後の取り組みは。

答弁　①総合的な学習の時間など教育活動全体を通して平和教育に取り組み、戦争の悲惨さや核兵器の脅威、平和の重要性について理解を深めている。②「核と平和を考える市民のつどい」を中心に平和事業を継続し、充実していく。

質問　優しさあふれるまちづくりについて、①既設のポケットパークに屋根を設置する考えは。②ウォーカブル推進都市について、考えは。

答弁　①整備費用や維持管理経費など財政的な課題もあり、設置については困難性がある。②都市計画マスタープランの検討時にウォーカブルなまちづくりを意識して策定しており、その実現を目指し、機を捉えた取り組みを進めていく。

奨学金の再編について

無　会　派　永井 みつる　議員

質問　奨学金の再編について、①昨今の急激な物価高騰等により利用実績の乏しい貸付型奨学金の見直しを行うとともに、更なる需要が見込まれる給付型奨学金を増やしていくことは可能か。②給付型奨学金の出願要件である5段階評価の評定基準を見直し、出席日数等を重視していく考えは。

答弁　①貸付型・給付型それぞれの現状等を注視しつつ、制度の再編等を含めた持続可能な支援の在り方を検討していく。②生徒の個性や得意分野を尊重する制度設計となっており、より効果的な制度となるよう、更なる検討を深めていく。

質問　教員の働き方改革について、貴重な人材を確保するため、制度として働き方を変える仕組みづくりが重要と考える。①小中学校の自動応答メッセージの開始時間を令和8年度より一律午後5時に変更する考えは。②副校長補佐を全校に配置する考えは。

答弁　①やむを得ない場合の連絡や相談に対応できない等の課題があるが、教員の負担軽減の視点に配意し、必要に応じた設定変更を行っていく。②副校長の負担軽減や安定した学校経営に大きな効果があるため、引き続き都に要望していく。

質問　小学生国内交流事業について、①体験活動を更に増やす考えは。②応募の少ない男子児童に対するPR活動を工夫しては。

答弁　①引き続き参加児童の記憶に残る交流活動となるよう、運営協議会において協議・検討していく。②募集チラシへ交流先で楽しく活動する写真を採用するなど、男子・女子双方の心を引き付けるような周知に努めていく。

3面下段より

訪問介護報酬引き下げ撤回と介護報酬引き上げの再改定を早急に行うことを国に求める意見書提出の陳情を不採択とする委員長報告について

反対　みらいネットワーク　青山 秀雄　議員

捜査機関による数々の証拠のねつ造等が、袴田事件の再審までに時間を要した根本原因と考える。

また、市議会として意見書の提出を通して再審法改正促進の国会議員連盟の後押しができなかったことは、大変残念である。

えん罪に巻き込まれるという不安を繰り返してはならないとの立場を明らかにし、本陳情を不採択とする委員長報告に反対する。

反対　日本共産党昭島市議団　大野 ふびと　議員

令和6年4月に訪問介護報酬が引き下げられたことにより、事業所の倒産や廃業が過去最多を記録し、サービス基盤の崩壊が加速している。訪問介護は在宅介護の要であり、訪問介護の崩壊は要介護者とその家族の生活を根底から脅かす。

尊厳ある生を全うするための社会基盤は国が責任を持って支えるべきと考え、本陳情を不採択とする委員長報告に反対する。

反対　みらいネットワーク　林 まい子　議員

人材不足で全ての依頼を受けられない事業者がある中、地方自治体でも高齢化等に伴う介護給付費の膨張等により、介護サービスの提供体制の持続に危機感を持っている。

介護報酬を引き上げ、安心して仕事に携われるような対応が急務であるが、地方自治体ごとの対応には限界がある。国に意見書を求める本陳情の趣旨に賛同し、委員長報告に反対する。

「最高裁判決に基づきすべての生活保護利用者に対する速やかな被害回復措置の実現を求める意見書」の採択に関する陳情を不採択とする委員長報告について

反対　日本共産党昭島市議団　佐藤 文子　議員

原告の命と尊厳に関わる判決の下、国は一刻も早く謝罪と違法状態の是正を進め、被害の回復に具体的に取り組むべき。また、専門委員会の設置は、原告や弁

5面下段へ続く